

## 「神に知恵を求める」ヤコブ1：5～8 堀田修一 21・1・24

### I 知恵を求めるべき理由。

1. 「成熟した」者（：4）とは、主の御心を判断する知恵を持っている人。試練を喜びと思える（見なせる、判断する）ためには、その苦しみの中にある神の最善のご計画の意味を悟る知恵、判断力が必要である。
2. 「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら」：5。私たちは、知恵の欠けた者なので、いつも神に正しい判断を祈り求める必要がある。

### II 知恵とは？

1. 人生の深い洞察力。善悪の判断。聞き分ける心（「わが神、主よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべ（ソロモン）を王とされました。しかし私は小さな子どもで、出入りする術を知りません。そのうえ、しもべは、あなたが選んだあなたの民の中にいます。あまりに多くて、数えることも調べることもできないほど大勢の民です。善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください」Ⅰ列3：7-9）。知識を正しく用いる力。真の知恵は、真の知恵者である神を知り神を恐れ敬い祈り求めることから生まれる（箴言1：7）。
2. 試練をマイナスのことではなく、神が支配しておられ、神の意図、意味がある事と判断し、霊的な価値があると見なせる知恵。
3. 自己満足の愛ではなく、愛を正しく実践するための知恵、識別力。「私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように」（ピリ1：9，10）。正しい愛の実践には、神からの知恵、識別力を求める必要がある。愛を実践するのに①誰に？何を？いつ？どこで？どのようにしたらよいのか？待つ時か、踏み出す時か？祈り求めましょう。②それぞれの分、領域を識別しつつ愛を示せるように祈り求めたい。識別を祈り求めよう→
  - i 神の領域＝人を救う、変える、成長させる、人を正しくさばく。※私たち人間に与えられた役割は、愛を示し、人々の救いのために祈り、福音の種を蒔くこと。人を救うこと、変えること、成長させる事は、人にはできない。神の領域。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」Ⅰコリント2：6。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできるのです」マタイ19：26。
  - ii 自分が負うべき分、責任。他人に押し付けてはいけない自分の分。「人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです」ガラテヤ6：5。
  - iii 他の人、その人自身が負うべき分。過度に人の分まで先々にやり過ぎるのは真の愛ではない。その人自身の自立、成長（失敗を通しての学びを含む）を邪魔してしまう。「みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません」Ⅰペテロ4：15。私たちは、互いに協力者であって、他の人を支配する者になってはならない。※但し、心と身体に障害を持っておられる方々には、適切な助けを必要とする。※教会が助ける分とその方のご親族の分がある。
  - iv 「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法（神を愛し、隣人を愛しなさい）を全うしなさい」ガラテヤ6：2。私たちには、それぞれの負うべき分があるが、皆、弱さがあり、また年齢とともに弱くなり、互いに重荷を負い合い支え合う必要がある。心から愛を示したい。神の愛をいただいて互いに愛し合い支え合いたい。この時、神の知恵、判断力、識別力を祈り求める必

要がある。どこまでやるべきか。相手が真に必要としているものは何か。自分の分を越えて背負い過ぎて、自分が倒れ、かえって共倒れにならないようにするにはどうしたらよいか。自分勝手な想像で助けるのではなく、神に祈りつつ、良き判断をして行きたい。証し：

※教会で助け合う分とご親族の領域と、必要に応じて行政の助けを受ける事も祈り求めたい。

Ⅲ 祈り求めるお方はどんな方→：5「だれにでも」＝人を差別されない。「惜しみなく」＝下心のない真心から与えて下さる方。犠牲をいとわず。「とがめることなく」＝人間の間では、あまりにもたびたび何かを求められると不快や不満を感じ、「私に求め過ぎないで」とその人をとがめる。人に過度に求め過ぎることは、負担を与える。しかし、神は違う。偉大な神は、神を求めない不信仰のほうをむしろとがめられる。偉大な父なる神は、私たちが深く愛しておられ、私たちが祈り求めることをとても喜ばれる。「天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものをくださらないことがありますしょう」マタイ7：11。神は、けちでちっぽけな方ではない。天地万物の造り主、所有者である。すべてをお持ちの方。「それゆえ、主は、あなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神（純粋な動機の祈りに答えられるお方）であるからだ」イザ30：18。

Ⅳ 正しい求め方→：6。「少しも疑わず、信じて願いなさい」。私たちは、どうせ与えられないと疑いながら祈ることがある。心から神を信頼して大切な知恵を祈り求めよう。「疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです」。つまり、確信も平安もなく、いつも揺れ動いている。しかし、そういう時は、不動のみことばをじっと見つめ何度も読み、思い起こそう。みことばは、私たちの信仰を育てる。疑う人への報いは、「その人は、主から何かをいただけるとってはなりません」：7である。「そういうのは、二心のある人（信仰と不信仰に心が分かれている、神と神以外のもの、執着しているものに心が分かれている、神に心が集中していない）で、その歩む道のすべてに安定を欠いた（落ち着かない、移り気、気まぐれ）人です」：8。

しかし、不動の神のみことばに信頼して立つとき、状況が不安定でも、主にあって安定した心で歩み、試練を乗り越えることができる。絶えず、聖なる力と愛と知恵（思慮分別）を祈り求めて歩みましょう。神は与えて下さる！

現在は、特に、コロナ禍の中で、個人の生活の自制、教会の集会のあり方、感染予防の判断、知恵を神に真剣に祈る必要がある。「祈りしか出来ない」ではなく、全能の神に「祈る事が出来る！」のです。証し：「コロナ禍の中で、礼拝をどうしたら良いですか？」と祈った時に私に神が与えられた知恵、判断、御言葉→それぞれの「意見をさばいてはいけません」ローマ14：1。「それぞれ自分の中で確信を持ちなさい」14：5。この御言葉の知恵、判断により、誰からも強制されない当教会の三つの礼拝のあり方（他の教会と比べてはいけない。それぞれの教会の方法がある）が生まれた。①午前7時からの礼拝。②10時半からの礼拝。③基礎疾患のある方や体調の悪い方、事情のある方は、ホームページを用いてのご自宅での礼拝。それぞれの礼拝を神が喜ばれ祝福されますように。